

資料3 心肺蘇生法とAEDの手順

* 仙台市ホームページ <http://www.city.sendai.jp/kurashi/kyukyu/kyukyu/0066.html> より

01 反応の確認

耳もとで大声で呼びかけながら、肩を軽くたたき、反応をみます。



02 119番通報とAED手配



反応がなければ、大きな声で助けを求めます。
協力者が来たなら「119番通報」と「AED」を要請します。

05 気道の確保(頭部後屈あご先拳上法)

片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指の二本をあらかじめ当てて頭を後ろにのけぞらせ、あご先を上げます。



感染防止

感染を防止するには血液に触れないことが大切です。
傷病者に出血がある場合や、感染防護具を持っていないなどにより口対人工呼吸がためられる場合には、人工呼吸を省略し、すぐに胸骨圧迫に進みます。

06 人工呼吸(2回)

口を大きくあけて傷病者の口を覆い、息を約1秒かけて吹き込みます。
傷病者の胸が膨らむのを確認します。
いったん口を離し、同じ要領でもう1回吹き込みます。

吹き込みは2回まで。



07 胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ



胸骨圧迫を30回連続して行った後に、人工呼吸を2回行います。
胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ(30:2のサイクル)を救急隊に引き継ぐまで、または傷病者が動き出したり、うめき声や普段どおりの呼吸が出現するまで続けます。

AEDを置く場所



AEDは傷病者の頭の横におきます。
心肺蘇生法を行っている途中でAEDが届いたらすぐにAEDを使う準備をします。

08-1 AEDの電源を入れる



AEDの電源を入れます。

※機種によって、電源ボタンを押すタイプとふたを開けると自動的に電源が入るタイプがあります。

03 呼吸をみる

普段どおりの呼吸があるかどうかを観察。
10秒以内で、胸や腹部の上がり下がりをみます。



04 胸骨圧迫(心臓マッサージ)

肘をまっすぐに伸ばして手の付け根の部分に体重をかけ、傷病者の胸が少なくとも5cm沈むほど強く圧迫します。
1分間に少なくとも100回のテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。
圧迫と圧迫の間は、胸がしっかりと戻るまで十分に圧迫を解除します。
※人工呼吸がためられる場合は、胸骨圧迫のみを継続します。



08-2 パッドを貼り付ける



傷病者の衣服を取り除き、胸をまだらに、電極パッドを胸部にしっかりと貼り付けます。
電極パッドは、右前胸部および左側胸部の位置に貼り付けます。



09 心電図の解析



電極パッドを貼り付けると自動的に心電図の解析が始まります。
このとき、誰も傷病者に触れてはいないことを確認します。

10 ショックボタンを押す



AEDが電気ショックの必要があると判断すると自動的に充電が始まります。
充電が完了したら、メッセージに従ってショックボタンを押してください。
このとき、誰も傷病者に触れていないことを確認してください。

11 心肺蘇生法を再開



電気ショックが完了すると、「ただちに胸骨圧迫を開始してください」などの音声メッセージが流れますので、これに従って、ただちに胸骨圧迫を再開します。